

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
ところとからだのしくみⅡ Physical and Emotional Mechanisms II		1年	前期 1 / 2	別途、時間割参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義	選択	(介護福祉士養成課程必修)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
和田晴美	福祉棟 2 F	月・火・水 (授業時間以外)	授業中に指示します	
授業の概要				
人間はどのようなメカニズムで、食事や排泄を行い、器官や機能はどのようになっているのか。そして、ところとからだほど のように関係するのかといった介護の基礎知識となるところとからだのしくみを学び、介護に関連付けて理解できるようにす る授業である。食事や排泄は人間の基本的欲求であり、生活の基盤となるものである。また、人の死は避けて通れないもので あり、介護福祉士は終末期の介護への対応も求められている。人間が死に向かう過程でおこる、ところとからだの変化につい ての理解を深めることを目指す。				
授業の到達目標				
①食事および排泄に関連するからだの構造と機能を理解できるようにする。 ②食事と排泄がところに与える影響を理解できるようにする。 ③心身の機能低下が食事や排泄におよぼす影響を理解できるようにする。 ④死にゆく人のところとからだの変化を理解できるようにする。				
授業の方法				
講義・グループワークなどを通して、食事および排泄の意義や重要性、支援する際に関連するからだの構造や機能、さらには 死にゆく人のところとからだについて学ぶ。				
学習の成果				
①食事および排泄に関するからだの構造と機能を、説明することができる。 ②正常な食事・排泄の状態と異常な状態を列挙することができる。 ③食事と排泄の関連を説明することができる。 ④食事および排泄を障害する原因がわかり、その対処法を説明することができる。 ⑤食事と排泄がところに与える影響を説明することができる。 ⑥人が死にゆく過程におけるからだの変化を説明することができる。 ⑦人が死を感じた時のところとからだの変化を説明することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	授業ガイダンス（授業のねらい、授業の進め方、評価方法等） 食事の意義			
第2回目	食事に関連したところのしくみ 食べることに関連したからだのしくみ			
第3回目	消化器の解剖と生理① 口腔、食道、胃の解剖と機能			
第4回目	消化器の解剖と生理② 小腸、大腸、肝臓、胆のう、膵臓の解剖と機能			
第5回目	食事内容と栄養 栄養素、エネルギーの摂取基準			
第6回目	食事に関する機能低下の原因と影響 加齢、疾患、障害			

第7回目	さまざまな食事形態と代償的な栄養摂取法 食事に関する多職種との連携		
第8回目	排泄に関連したところのしくみ 尊厳にかかわる排泄の介護		
第9回目	排泄に関連したからだのしくみ 泌尿器の解剖と機能		
第10回目	排泄のしくみ 正常な尿と排尿状態、尿と排尿の異常、正常な便と排便状態、便と排便の異常		
第11回目	排泄に関する機能低下の原因と影響 排尿・排便の障害、さまざまな排泄形態、医療職との連携		
第12回目	死にゆく人のところとからだのしくみ 日本人の死亡の状況（統計）、死の定義		
第13回目	現代の死の特徴と日本人の死生観 死に対するところの変化		
第14回目	死にゆく人のからだの変化		
第15回目	定期試験とまとめ（解説）		
成績評価の方法と基準			
評価の領域		割合	評価の基準
授業参加態度		20%	以下の視点で評価する。授業の準備が整い、講義は集中して必要なことをノートに取り、疑問点は質問して解決できること。ディスカッションでは他者の意見を傾聴し、自ら積極的に発言して学びを深められること。
レポート			
調査報告書			
小テスト		30%	授業の初めに前回の授業の振り返りとして、小テスト（文章の正誤を判断する問題）を行う。
中間・学期末試験		50%	語彙群からの選択問題、文章を読み正誤を判断する問題等で知識の確認をする。
発表内容（態度含む）			
その他			
教科書と参考図書			
①新・介護福祉士養成講座 第14巻「ところとからだのしくみ」中央法規出版 ②「全部わかる人体解剖図」成美堂出版 <ところとからだのしくみⅠと同じ>			
履修上の心得・ルール			
講義・グループディスカッションともに積極的に参加することを望む。教室での飲食、机上への飲み物の放置も禁ずる。やむを得ず欠席する場合は、必ずその部分の学習を補い、届け出は速やかに提出すること。この授業は前期のクォーター科目である。週2回の授業となるので、注意すること。			